丹波篠山ほのぼの採集記とニホンアナグマの解体

高校１年　O.Y.
H.H.

1．はじめに

皆様いかがお過ごしでしょうか。生物研究部の部誌は堅苦しい内容が大半を占め、お疲れの読者も多いと思います。読んでいて疲れるならば当然書いている側も疲れている訳で、本記事では読み手にも書き手にも優しいものになるよう心がけていこうと思います。

さて、タイトルの通り丹波篠山へ採集に行ってきたわけですが、~~魚類を採集するはずが中型哺乳類を採集するなど~~その愉快な１日を振り返り、後半ではその際に得たニホンアナグマの解体について書いていくので、コラム感覚で読んでいただければ幸いです。

2．採集までの経緯

本採集は採集遠征の一環として春休み初め、3 月 20 日に 2 人で行ったもので、新しい採集スポットの開拓が目的でした。と言うのも、これまでシーズンごとの観測を行ってきた武庫川では大きな工事が入り、生き物を取り巻く環境が激変してしまいました。水の主な流路である澪筋にも手が加えられ、川の三面がコンクリートに変貌した箇所もありました。その結果、生き物の種数や個体数が大幅に減少してしまいました。仮に生研が文化祭で展示するだけの個体数を捕り去ったとすると、生態系に取り返しのつかない悪影響をもたらしてしまいます。これらの理由から武庫川の定期観測は継続しつつも、新たな観測ポイントの検討が急務となっていて、今回の採集へと至ったわけです。

向かうこととなったスポットは篠山川支流の X 川(JR 篠山口駅から北東へ 11.7km)と Y 地区(X 川からさらに北東へ 12.1km)の 2 箇所で、Y 地区は過去に採集記録のある希少種のオヤニラミを狙っての設定です。

目的地が決まったとなると当然周辺のバス停と時刻表を探します。運良く 2 箇所とも付近にバス停が見つかり一安心したのも束の間、驚くべきことに運行時刻が登下校のタイミングしかないということが発覚.....え？　そんな大自然を感じる時刻表ですからバスは使えず、悩みに悩んだ末に目的地の最寄り駅(JR 篠山口駅)にレンタサイクルを発見。期せずして総走行距離フルマラソン越えのサイクリング採集が決行されることとなったのです。

サイクリング採集！聞こえは実に素晴らしく楽しそうですが、採集にはウェダー(防水の胴長)やバケツ、網など多くの荷物が必要となるた

め、実際は「積載物法律スレスレサイクリング採集」です。特に問題なのは網で、あの長い柄の部分は~~街中でヤバい人感を出すだけでなく~~自転車に積む際も足を引っ張ります。網を自転車に合法的に乗せるとなると籠に縦に突き刺して固定する以外に方法がなく、こうすると~~まるで貧相な大名行列のような~~大変奇妙な集団が発生します。当日見かけた方は忘れてください。なお、道路交通法及び兵庫県道路交通法施行細則第7条によると積載物について、

・幅は積載装置の幅に0.3メートルを加えた数値以下であること
・長さは積載装置の長さに0.3メートルを加えた数値以下であること
・高さは積載装置に積んだ時に地面から2メートル以下であること

と記載がありますから、高さに関しては本当に法律ギリギリな訳です。

さて、経緯はこのくらいにして、まずは採集当日の愉快な1日について振り返っていきます。

3．採集

9時過ぎに最寄りである篠山口駅に到着し、無事にレンタサイクルを借りることができました。この際、係のおじさまに「レンタサイクルの返却時刻を超過したらどうなるのか」という旨の質問をしたところ「超過したらダメ」というごもっともなご指摘をいただきました。この瞬間、『走れメロス』の実写化が確定したのです。

篠山城跡

X川の様子

初めに向かったのはX川で、道中で運良く史跡である篠山城跡を横に眺めながらの移動となりました。~~決してわざと見える道を通った訳ではありません。~~篠山城跡を通り過ぎて十数分走ったのち、突然の豪雨に見舞われました。一時雨宿りするために停車したものの停車した瞬間に雨がやみ、嬉しいのか虚しいのかよくわかりません。そうして辿り着いたX川ですが、いざ採集！と意気込んで始めたものの降りるとオオカワジシャをはじめとした外来水草の楽園。早々に未来が見えました。

数十分採集して得られたのは4匹のアカハライモリのみ。カワムツとカワヨシノボリはたくさん採れましたが、それ以外は何も採れませんでした。ハズレです。

これ以上X川で採集しても何も得られないと察し、早々にY地区に向

かうことになりました。そのとき H.H.に事件が。サイクリングの準備をしていた時のことです。ウェダーを脱ぎ、

問題の電気柵

靴に履き替えようと自転車のサドルと農地の柵に手をかけた瞬間、突如として彼の左手から心臓を通り右手へと衝撃が駆け巡ったのです。その直後の彼は硬直と痺れで思考が停止していました。ふと我に返った時、手をかけた柵が電気柵であったことに気がついたのです。よくもまあこんなところに電気柵を設置したな、看板くらい立てろよ、そんな文句の 1 つでも言いたいものでした。しかしよくよく考えてみると、雨が降りしきる中、自転車のサドルと電気柵に手をかけ感電する人間なんて普通居ないですよね、~~彼が全て悪いです~~。

ニホンアナグマ

ここで H.H.がスマホを開くと、なんと充電 2%。充電残量の推移を確認すると、60%から 2%へ垂直に落下した崖のようなグラフが見られました。~~これだから旧機種は。~~さて、X 川から Y 地区までは前述した通り 12.1km ですが、その道中、国道沿いを走行していると本採集最大の功績とも言える発見がありました。そう、中型哺乳類、ニホンアナグマのご遺体です。このご遺体はまだ硬直も始まっていない死にたてホヤホヤの素晴らしい状態で、ロードキル(自動車との事故死)にあった個体でした。この段階で回収すると後の移動に響くためまた帰りに訪れることとしました。可愛いアナグマにお別れした後、心臓破りの山道をヘロヘロになりながら乗り越え、途中のコンビニで軽く昼食を済ませて Y 地区に到着しました。

Y 地区には今回の目玉であるオヤニラミをはじめとした渓流魚が生息しています。採集を始めるために降りる場所を探しました。が、そこは頑丈な護岸の渓流。よくよく考えてみると降りられる場所などあるわけもなく。支流から降りようかとも考えましたが、本流との合流部近くに金網が張られ我々の侵攻を阻止しています。それより本流側は道路の橋で、立ち尽くすしかありません。そこで一言、「この金網降りられるの

では？」。ここは行ける！そう確信し、いざ採集開始。.....ハイ、またハズレです。オヤニラミはおろか、魚の生命感がまるで感じられません。マドジョウらしき魚は1匹だけ捕獲できましたが網の穴から抜け出し幻になり、結果的な成果は読んで字の如く0です。ロケーションこそ命感じる美しい渓流でしたが、見掛け倒しでした。再び数分の集中豪雨にも見舞われ、採集の意欲を完全喪失してしまった一行は意味もなく支流の遡上を開始。途中アミメアリの大群に遭遇したり、隣接していた田んぼのマスを探る悪あがきをしたりしたものの、結局帰路に着くことになりました。来た道をそのまま引き返し、アナグマと感動の再会を果たします。所持していたゴム手袋を用いてアナグマを回収し、二重にしたビニール袋に入れてなんとか漕ぎ出したまでは良かったものの、時刻を確認するとなんと返却最終時刻の 30 分前！期待通りの『走れメロス』状態です。行きと全く同じ道にも関わらず幾度となく道に迷うという苦難を乗り越え、なんとか3分前に到着し返却を果たした感動ストーリーは全米の涙を誘います。以下、到着時の係のおじさまとの会話です。

おじさま「（アナグマ入り袋を指して）それはなんや？」

私たち「ヤバいやつです。」

おじさま「ヤバいやつか。ハッハ」

理解のある大人で助かります。アナグマを途中で購入したクーラーボックスに移し替え、電車に乗車して帰宅しました。~~二度と開けたくない。~~

こうして成果がイモリとアナグマという結果に終わった採集遠征ですが、開拓の難しさを実感させられることとなりました。次の章では、なんとかして持ち帰ったアナグマの解体について述べていきます。

4．アナグマの解体

(1) 解体の目標

本解体の目的は剥製と骨格標本の2つを作製することです。アナグマは中型哺乳類で取り除かなければならない筋肉や脂肪が多く、特に複数の段階を踏むことが必要な剥製では完成までに長期的なスパンを見据えなければなりません。

~~ちなみにアナグマは非常に皮下脂肪が多く美味であることが知られています。~~

また、アナグマの全長、つまり鼻から尾の先までの長さを計測したところ 78.5cm でした。

なお、アナグマの体内にはどんな未知のウイルスが潜んでいるかわからないので、解体の際にはゴム手袋を2枚以上装着し、白衣を着用し

て行いました。

(2) 3 月 22 日

さて、このアナグマを処理するためには、まず部に持ち込まなければなりません。電車に持ち込む相手は外気温に完全に依存して保管された、腐敗している可能性が非常に高い代物です。まだ冬の寒さが残る春とはいえです。ただ持ち帰ったのが夜であったことや、急遽購入したクーラーボックスに保管していたことよって、夜の寒さが常に充満していた可能性もわずかにあります。そこに賭けるしかありません。

解体前のアナグマ

さあ部室に着きました、パンドラの箱を開けるときです。鼻を近づけます。獣臭が漂いますが、そこまでではありませんでした(慣れてしまっていた可能性もあります)。

仰向けのアナグマ

部室内で 2 日間常温放置されたアナグマを解体するのは流石にはばかられたので、風通しが良く日光の遮蔽された部室手前でビニールシートを敷いて行いました。流血や体表のダニなどの除去も含め一度洗った方が良いと考え、水を汲んだクーラーボックスへの入浴、そしてお湯をかけての殺菌を行いました。最初こそ~~まるでアッサムティーのように~~赤く染まっていた湯船も、水を入れ替えて 4 回ほど入浴させるとその色は薄くなり、給湯ポット 2 台体制でお湯をかけて殺菌も行ったアナグマはよりいっそう可愛さを増しています。

腹部を開いた様子

さあ、洗い終えたらいざご開帳です。サバイバルナイフと解剖バサミを使用して解体していきますが、まずは仰向けにしたアナグマの内臓が見えるようにサバイバルナイフで腹部の皮と身を切って開きます。腹部に切れ込みを入れ、皮と筋肉の間に刃を入れて開いていきます。内臓がよく見えるくらいまで皮を剥ぎ、腸

に付随する血管や膜を取り除いてみると、想像以上に内臓がぐちゃぐちゃです。ここらへんから腐敗臭がかなり強くなってきて、~~この臭いは腐ったイチゴの臭いが強力になった状態にかなり似ています。~~名称が判断できる臓器は肺、心臓、胃、腸とかろうじて肝臓のみでした。あまりにも乱れているため内臓の特定を諦め、内臓は全てそのまま取り出すこととしました。

乱れた内臓

肋骨に隠されている心臓と肺以外の内臓をあらかた出し終えたら、ここからは地獄の作業が待っています。そう、除肉です。除肉は皮や骨の周りの筋肉や脂肪を除去していく作業で、皮と骨を両方きれいな状態で確保する必要のある今回の製作では避けては通れません。前述した通りアナグマにおいて必要な除肉量は非常に多く、これ以降の日の作業は当分除肉になります。取り出した肉はほぼ馬刺です。~~美味しそうですね。~~また皮下脂肪の厚みが想像以上で、この部分を切り出す際は非常に快感で至高の時となります。しかし調子に乗っていると皮も一緒に切ってしまい穴が開いてしまいました。

内臓を摘出した様子

この日行った部位は主に右後足ですが、肉球部分をそのままのこして皮を剥ぐのに苦労し結局その部分をクリアできないまま帰宅となりました。

(3) 23 日

22 日終了時

22 日からは冷凍庫で保存していたのですが、ここでアナグマを凍らせて保存すると解凍にかなり時間がかかり作業時間が短くなる上、筋肉がシャーベット状になって除肉をしにくくなるということが判明します。とはいえ、保存方法は冷凍庫以外になく、かつ凍らせると臭いが比較的抑えられるという利点もあったのでこれ以降も作業時以外は冷凍庫にて保存しています。この日は主に肋

骨の除肉を行いました。

(4) 26 日

24 日に神戸市立博物館にて開催されていたミイラ展を観に行ったことが影響し、脳を鼻腔から摘出できるのではないかと迷走していましたが、そもそも鼻孔が狭すぎるので諦めました。除肉を全て行ってくれるような優しい「現代に生きるミイラ技師」はいないのでしょうか。

またこの日は背骨周辺の除肉を行いました。この際神経と骨の違いがつかず、冷や汗をかきながらの作業となりました。背骨の裏、背中の貫通を目指しましたが、このとき冷凍によって我々を拒絶するように固まってしまった前足やシャーベット状の筋肉が障害となり、この日中の開通は遂に成し遂げられることはありませんでした。

休日返上で睡眠時間を切り詰めて除肉を行う生活は最高です。今年の新語流行語大賞は「除肉」で間違いありません。

(5) 28 日

この日は行き詰まっていた肉球部分を解決するため、本職の剥製技師が剥製を作製している動画を視聴しましたが、ここで驚愕の事実が判明します。その動画ではなんと肉球部分を維持するために足の膝関節部分で骨を切断し、剥製において脛骨はそのまま足の中に残していたのです。剥製と骨格標本の両立が非常に怪しくなってきましたが、「肉球部分も少しずつ手作業で除肉する」という気が遠くなるような方針でとりあえずは進めることにしました。~~これでは現代に生きるミイラ技師どころか、現代を象徴する社畜です。~~

28 日終了時

また、この日は背骨の周りの除肉も行い、遂に背中側が貫通しました。非常にめでたいことです。

さて、この除肉作業において一番辛いことはなんでしょうか？臭い？作業量？いいえ、腰痛です。本来なら吊り下げて行うはずの解体作業を、器具と排水の都合上アナグマを地面に置いて行っているため、作業中は常にしゃがんでいることになります。長時間しゃがんだまだと当然腰がバッキバキになりますし、28 日に至っては実験の待ち時間で暇になった S 君が背中に乗りかかってきてもう最悪です。この劣悪な労働環境を改善するため、椅子を 2 つ並べてその上に俯く形で横になって除肉を行うという作業体勢が編み出されます。しかしこの「スーパーマン飛行体勢」には致命的な欠点があ

って、遠目から見るとはっきり言って完全に変人なのです。目撃した文化委員の方は忘れてください。お願いします。また、話しながら作業していると当然笑うこともあるわけで、俯いた体勢で笑うと肋骨が圧迫されてとても安定して作業している場合ではなくなります。みなさんも人生で一度くらいは陥った経験があるのではないのでしょうか。いや一緒にすんな~~しばくぞ~~とお思いになった方はすみません。

(6) 今後

4 日間解体に取り組みましたが、まだまだ除肉すら終わっていない状況です。目標である骨格標本、そして剥製の完成を目指し、今後も頑張っていきたいと思います。

5. おわりに

あなたがこの文章を読んでいるということは、この記事は無事採用されたのでしょう。果たしてこれは採集記なのかという話はさておき、無事に記事を書き終えられたことに安堵しています。

問題の骨格標本及び剥製が今年の文化祭で展示されていることを願いつつ、このあたりで筆を置かせていただきます。最後までお読みいただきありがとうございました。